

## 平成19年度公認会計士試験

# 合格体験記

その2

西原 健（会計研究科1年）



2007年の公認会計士試験は合格者数が増加し、私もこのように合格体験記を書かせていただけるようになり、非常に嬉しく思っております。試験に合格するには自分なりの勉強方法を見つけることが重要だと思いますが、この合格体験記が少しでも皆様のお役に立つことになれば幸いです。

私が公認会計士試験に合格できた主な要因は、この1年間は計算よりも理論を重視して勉強したことと前年の試験で科目合格したことであると思います。

について

公認会計士試験が2006年から新試験制度に移行して、単に知識のみではなく、公認会計士業務に不可欠な資質である思考力や判断力等を有しているかを判定する試験になりました（公認会計士審査会「改正公認会計士法における公認会計士試験の実施について」参照）。2006年の試験は思考力・判断力を問うような問題が従来よりも多く出題されていたので、この1年間は計算よりも理論を重視して勉強しました。

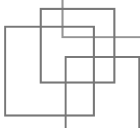
私は大学院と専門学校の通信講座を併用していましたが、最後の5ヶ月間は会計研究科の授業を中心に勉強しました。会計研究科の授業は、様々な角度から他の論点と結びつけて解説してくださるだけでなく、多くの問題提起をしてくださり、今まで当然のこととして捉えてきたものの中に問題点があることを気づかせてくださる授業でした。特に、財務会計基礎ワークショップ（以下、WS）では、伝統的な論点から新しい論点（包括利益、資産除去債務など）まで、会計処理等の根底にある考え方を異なる考え方や国際的な会計基準との比較を交えてより深く勉強することができ、財務会計的な思考力・判断力が身に付きました。また、毎週WSの前日にグループで1～3時間ぐらい議論したことにより、他の人の意見や考えを聞くことができ、財務会計に対する視野が広がりました。このWSのおかげで、配点の高い財務会計で他の受験生に差をつけることができたように思います。

について

2006年の試験では一括合格を目指していましたが、結果的に科目合格しかできませんでした。しかし、科目合格したことによって、どの程度勉強すれば合格点に達するのか（どのくらい細かいところまで勉強するかの範囲、インプットの精度など）が分かり、他の科目の目安になりました。また、自分の書いた答案が試験委員の先生に認められたことになるので、少し自信が持てました。

なお、決して科目合格を狙うことをお勧めしているわけではなく、基本的には一括合格を目指す方が良いのではないかと考えます。

最後に、読者の皆様が公認会計士試験に合格されることを心から祈っております。私も将来公認会計士になって活躍できるように、会計研究科での残り1年間に有意義なものとし、これからも成長していけるように頑張りたいと思います。



嶋崎直人（会計研究科1年）

この度、公認会計士試験に合格させていただきました。簡単にはありませんが合格体験記を書かせていただきたいと思います。

私は予備校と両立して勉強を進めていたため、予備校と会計研の勉強をどのような割合で取り入れていったかを中心に紹介したいと思います。なお、短答式については会社法の条文を読み込むこと以外にはあまり特有の論点はないと考えているため、論文式のみについて自分で優先的に勉強した科目順で言及させていただきます。

#### 1. 租税法、経営学

租税法は毎年改正論点多く、「最低科目合格」を意識して集中して勉強しました。今年以降はより論述の出来が合格を左右すると思います。その点、会計研は租税法を概論から深く学べるので非常に役に立つと思われます。経営学については試験委員対策を行っている予備校での勉強が中心でした。ファイナンスについてはもともと得意科目でしたので、ほとんど勉強はしませんでした。

#### 2. 監査論、企業法

私は理論科目が苦手だったため、これら2つの科目には苦労しました。特に監査論についてはイメージが湧かず、定義の暗記になりがちになっていました。しかし、会計研ではより実務に近い講義が聴けるのでイメージが湧きやすく、トピックとなっている論点やその背景までも理解すること

ができます。企業法についてはあまり深い領域まで立ち入らず、予備校の答練を理解するに留めました。

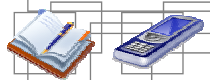
#### 3. 会計学

簿記、財務諸表論は範囲も広く、到底全範囲は網羅できないと考えたため、連結、キャッシュフロー、企業結合に絞って勉強しました。今回はたまたま功を奏したとも言えますが、予備校のテキストはリスクヘッジも兼ねて広く浅く論点を取り上げる傾向があります。正直、その程度の理解ではいざ本試験に出題されたときには対応しきれないと思われる。その点、会計研においては細かい論点をただ紹介するだけではなく、重要な論点を自ら深く掘り下げる勉強法が自然と身につくような講義を行ってくれます。

管理会計については得意科目ということもあり、短答後はほとんど対策はしませんでした。ただ、会計研の管理会計は会計士試験レベルを上回るほどに力を入れているため、合格後も新たに学ぶことは多々あります。

#### 4. 全体として

予備校の勉強をしていると応用論点や細かい論点に目が行きがちです。しかし実際は基本論点に立ち返り、それらを深く理解することで、応用論点もその場で考え解答を導く力を養うことができると思います。



満行 毅（会計研究科1年）

「情熱×努力×方向性」だったと思う。日本を代表する企業経営者の成功の哲学だ。掛け算である事がこの式の面白い所である。どれか一つが0なら全て0、ましてやマイナスなら解はマイナスだ。会計士試験に関してだけ言えば、合格する事が成功と言える。

「情熱」は動機の強さだと思う。きっと皆受験生は、胸に秘めている。会計士の勉強を始めた時の気持ちを忘れないで欲しい。その想いが人に努力をさせる

「努力」は勉強時間だと思う。勉強は基本的に朝からするもの。できるだけ朝から勉強して欲しい。友達と話している時間は勉強時間ではない。昼から勉強して合格する程甘い試験ではない。

「方向性」はこれが正しい方向性だと言葉で表すのは難しい。僕の場合は、早稲田の会計大学院に入ってからは、常に柔軟な考えで勉強する事を心掛けていた。少なくとも早稲田の会計大

学院にいるのだったら、講義やワークアウトをもっと有効活用して欲しい。会計士試験は専門学校が作るのではなく、教授や実務家が作るもの。教授の考え方に触れる絶好の機会である。それは合格という方向性とはずれてははいないだろう。自意識過剰な勉強では方向性にマイナス符号が付いてしまう。

長い間専門学校に行っている人は、特に方向性に注意して欲しい。会計士試験で差がつくのは基本的な計算と残りは全て理論である。しかし専門学校の模擬テストで最も差がつくのは計算である。そのギャップを認識しながら専門学校の成績は一つの合格の目安にして欲しい。そして今までの知識に、会計大学院で学んだ知識を融合させる柔軟さを大切にしたい。

勉強を始めたばかりの人は、特に努力に力を注いで欲しい。努力にマイナス符号が付く事はない。しかし最初から質の良い勉強はできない。量が質を生む。シンプルにだけに辛いと思う。

いろいろな「欲しい」を書いたが最後にもう一つ。僕の会計士受験生の仲間には心から受かって欲しい。そんな想いで少し偉そうに書きました。たまたに思い出して見て下さい。

「合格 = 情熱 × 努力 × 方向性」



大和 悠（会計研究科2年）  
～平成19年度試験を振り返って～

#### 概要

私は仕事をしながらの受験だったので、勉強に避ける時間は他の人に比べてかなり少なかったと思います。専門学校に行く暇は無かったし、今までの3年間の勉強である程度知識はついていたので、講義は受けず専門学校の答練だけもらって、同じ問題を何回も解いていました。

#### 何が重要か

私は、人それぞれ勉強方法は違うので、どの科目でも基本論点を外さない限り勉強方法は間違わないと思います。

それよりも、本試験で焦らず集中して答案を書くことが重要だと思います。皆さんは本試験でどんな問題が出てもしらない自信がありますか。

今後は試験制度が変わるのでよく分かりませんが、今回の論文試験は3日間で5科目15時間という強行スケジュールでした。その中でどの科目も100%の力で解くことは不可能でしょう。当然午後の科目や3日目は疲れ切っています。その状態で、自分の頭がパニックになるような問題でも焦らず、考えに考え抜いて書けることだけでも書くことが必要だと思います。

私も今回の監査論の試験第1問ではかなり焦りました。しかも周りを見ればひたすら書く音が聞こえてきます。それでも、周りの人は闇雲に書いているだけ、みんな自分と同じように分かっているだけと割り切るので。そうしていったん落ち着いてから、思い浮かぶ語句を基に少しずつ論点を広げながら書きました。

#### 会計研で勉強して

正直、会計研での勉強は知識の習得にはあまり役立ちませんでした。

しかし、それを補って余りあるほど、解答につながる過程や考え方を習得できたと思います。特に清水先生の管理会計論は、製造業における原価計算を中心に、なぜそんな計算をするのか、実務ではどう使われているのかを知ることができました。ただ単に原価計算の答えを出すだけでなく、その背景や考え方を定着させて今回の試験に臨んだことは非常に有意義だったと思います。

最後に、私が最も恵まれていたのは一緒に勉強する仲間がいたことです。彼らが横で勉強していることで、常に危機感を感じながら集中して勉強できました。



若本 裕介（会計研究科2年）

#### 合格の決め手となったもの

全ての科目において大きなミスがなかったことだと思います。企業法が苦手だったのですが、予備校の予想があたってくれたので助かりました。管理会計や監査論で長い論述が出題されましたが、会計大学院においてはそのくらいの論述は当たり前のようには書いていたので、あわてることなく対処することができ、その辺で予備校生と差をつけられたかなと思います。

#### 勉強方法について

##### 工夫した点

受験科目である7科目についてバランスよく勉強したことです。休みの日は一日に勉強できる時間を7で割って、全ての科目を同じ時間勉強しました。最後の方は監査、経営学などはもうそんなにやらなくてもいいかなと思いましたが、これを最後まで続けました。結果、予備校の答練などでは、特にずば抜けた科目はなかったものの、バランスよく得点でき、上位に食いこめるようになりました。

##### 受験予備校の利用

私は通信で予備校の授業を受講していました。大部分の受験生は予備校で勉強しているの、予備校でやっていることは見ておくが必要だと思います。余裕がない人は予備校の全国模試だけでも受けるべきだと思います。

##### 会計大学院の授業は役に立ったか

私は会計大学院の授業で、考える力とセンスを身につけることができたと思います。会計大学院にはたくさんの素晴らしい先生がいらっしゃるの、様々な科目で様々な考えを身につけることができました。ワークアウトにおいては毎回川村先生の問題に苦しめられましたが、おかげさまで力がついたと思います。本試験の問題が簡単に感じました。

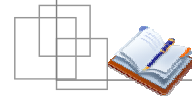
##### おすすめの勉強方法

ワークアウトや予備校の答練で自分が書いた答えをよく読むことが大事だと思います。そうすることで自分がわかっていないところや明確になると思います。計算問題はたくさん解くことも重要だと思いますが、自分で解き方を工夫してみるのも重要だと思います。予備校の解答の解き方が一番ではないと思います。

##### 会計大学院に対する要望

企業法の授業をもう少し充実させてもらえたらいいなと思いました。実際私の周りには自分を含め企業法が苦手な人が多かったように思います。

あと、定期試験の模範解答などがあるとありがたいです。チューターの方などに解説をもらえたらありがたいと思います。



荻堂 直樹（会計研究科1年）



スペースの都合上、多くは書ききれないため、以下に私の勉強法、合格の決め手となったもののうち、重要だと思ったことを箇条書きで書かせていただきます。これらは一般的な当たり前で月並みなものも、私独自のものもありますが、それぞれのやり方に応じて、少しでも皆さんの参考にしていただければ幸いです。

常に効率的に勉強をするように心がける

会計士試験の試験範囲は、やはり非常に膨大なものであり、闇雲に勉強するだけでは効果的でないため、常にこの観点を忘れないことが大切だと思います。具体的には、保険論点を丸々潔く捨て、その代わり重要論点は完璧にしました。これは危険な方法であるようですが、保険論点は出題されても多くの人は解けず、逆に重要なものをおろそかにすることがなくなるので、そうすることで私は限られた時間を有効的に活用するようにしました。

暗記すべきことは暗記する

近年の試験は理解力重視の考えさせる問題が増えたからといっても、やはり暗記しなければならない定義、典型論点等は多数存在するため、くだらない語呂あわせを自分で作ったり、イメージ図を書いたりフローチャートを作ったりして、それらを何回転もして出来るだけ覚えるように心がけていました。

租税法の消費税、経営学のファイナンスに力を入れる

この二つに関しては、私は他の人と比べてかなりの時間を費やしました。なぜならばこの両者は論文式試験においてほぼ出題されることが予想され、配点も高いにも関わらず、分量がそれほど多くないため、あわよくば満点を狙うことも可能であり、費用対効果の観点からも完璧に仕上げればかなり優位に立てるものとなるからです。

考えさせる問題に対応するためにワークアウトを活用する

会計研究科のワークアウトは予備校の暗記吐き出し型の問題とは違うため、考える力を養うためにはいい問題であると思います。時間がなくてワークアウトを受けることが出来なくても、最低でも問題と解答に目を通しておくことは有意義であると思います。

やる気を常に維持するために工夫する

私は自ら意志が弱いと自覚しているため、やる気を常に維持するために、合格してからのことを思い浮かべたり、あらゆる合格体験記を読んだりして常にやる気を維持させるように心がけました。そして勉強せざるを得ない環境に自らを拘束させるため19号館での自習室に常に身を置くように心がけ、絶対的な勉強時間を確保させるように心がけました。

以上生意気なことを申してしまいました。最後に会計研究科での日々は、学習面ではもちろんのこと、精神面でも、多くの志の高い共に頑張れる仲間がいて、会計士受験を行うためにはすばらしい環境であったと思います。心から早稲田大会計研究科に感謝をしたいと思います。

平成19年度公認会計士試験では、本研究科の在學生33名、修了生17名(在学中合格者は含まず)が合格しました。 [ 合格者 / 受験者(合格率) 2007.12.5現在]



	論文式 ( )	短答式(受験者・人)
1年生	15 / 38 (39.5%)	82
2年生	18 / 35 (51.4%)	56
在學生合計	33 / 73 (45.2%)	138